

## 第7回盛岡信用金庫「桜の札所・絵画コンクール」 一次・二次審査の講評

令和元年6月28日（金）盛岡信用金庫本町支店会議室にて、審査員に佐藤 嘉彦 様、並びに、柳村 栄 様をお招きし、一次・二次審査を実施しました。

当日は、令和元年春応募1,008点の中から、一次審査により200点を選出し、二次審査により50点を最終審査の対象作品として選出いたしました。

つきましては、佐藤先生、柳村先生より頂戴した講評を以下のとおりご紹介申し上げます。

令和元年度は、県内15小学校、1団体から1,000名を超える児童の皆さんの素晴らしい作品を審査させていただきました。今年度で7回目を迎えるこの「桜の札所・絵画コンクール」は、ますます先生方や子供たちに親しまれ、県内に浸透してきていることが伺えます。あらためて出品された児童の皆さん、そして指導された先生方に敬意と感謝の意を表したいと思えます。

私は、小4から小6までの作品を審査させていただきました。その審査の感想を述べさせていただきます。

4年生の作品は、桜の木々に素直に向き合い、「お話し」を素直に描こうという素敵な様子を感じられました。特に主役である桜の木を中心とした周囲の景色が丁寧に描かれていた作品が多かったと思います。桜の花びらの濃淡も筆の強弱を意識して、ていねいに彩色されていました。子供たちのすばらしい豊かな感性を感じることができました。

次に5年生の作品は、透明感のあるしっかりとした個性豊かな作品が多かったと思います。描画材料は、水彩絵の具や色鉛筆を使い合わせながら、見て感じた色を自然に表現していたのがとてもよかったです。また、下描きの段階でものびのびとした線で桜の木々を描いていたのがとてもよかったです。

最後に6年生の作品は、桜の色や花の形を特に忠実にていねいに描いている作品が多かったことです。さすが6年生です。画面の中には、桜の木と共に愛着のある校舎であったり、目の前に広がる芝生であったりと周囲の景色がうまく画面に取り入れられ、広がりや空間をととても感じる作品が多かったことです。作品全体に作者の描いた桜の木々の広がりと大きさをとても感じました。

毎年、「桜の木との楽しい会話」が聞こえてきそうなていねいで心温まる作品が多く、私は審査が終わると、気持ちがとてもゆったりとなるのを感じています。また、子供たちに的確な視点を与え、個性豊かな表現の作品が多かったのは、先生方の熱心なご指導の賜物と思います。

来年もまた、県内各地の多くの学校から子どもたちの素晴らしい桜の札所・絵画が出品されることを期待して、またその作品と出会えることを楽しみにさせていただきたいと思えます。



盛岡教育事務所  
佐藤 嘉彦

### ○審査員 佐藤 嘉彦 様 略歴

盛岡市出身

盛岡第三高等学校卒

福島大学教育学部美術科卒

昭和54年4月～田野畑中学校、岩泉中学校、上田中学校 教諭

平成6年4月～普代村、旧山形村、久慈市、滝沢市

各教育委員会

平成19年4月～八幡平市立西根中学校校長

平成22年4月～滝沢村立滝沢第二中学校校長

平成25年4月～盛岡市立上田中学校校長、

岩手県中学校長会会長、県美術館協議会委員 他

平成28年4月～盛岡教育事務所 教育相談員、

盛岡大学非常勤講師

平成30年4月～盛岡教育事務所 在学青少年指導員



一次・二次審査 令和元年6月28日（金） 於：盛岡信用金庫本町支店会議室



県内15小学校1団体から1,000点を超えるたくさんの作品が寄せられ、今年度も、子どもたちの思いが込められた桜の花の絵画に囲まれながら、楽しく充実した時間を過ごさせていただくことができました。子どもたちを指導して下さった先生方、そして、励まして下さったご家族の皆様にご心から感謝いたします。

私は、一・二次の審査で、主に小1から小3までの作品を担当させていただきましたので、その学年の感想を述べさせていただきます。

1年生の作品は、桜の木を画面の中心に据え、幹や枝をクレヨンで描き、花びらを絵の具で彩色する作品が多く見られました。桜に対する思いを1年生らしく素直に伸び伸びと表現している作品に、心を強く惹かれました。

2年生になると、複数のクレヨンを塗り重ねることで幹のざらざらとした質感を表現したり、絵筆の点描で花びらの色の重なりを表現したりするなど、工夫して彩色しようとする探求心の芽生えを感じました。また、桜の樹木の他に、周囲や背景への意識が向けられ始めていました。

3年生になると、花びらの重なりや色合いの変化、日差しの中で輝いている花びらの様子など表そうと工夫する中で、にじみやぼかし、混色や重色などの技法を身に付けていく様子が見え始めました。また、周囲の様子を描いた作品が増え、その桜がどのような場所で愛されているのかが伝わってきました。

このように、学年の発達段階による観察力や表現力の違いが感じられますが、共通して言えるのは、心を込めて描かれた作品を見つめていると、子どもたちの思いが声となって私たちの心に伝わってくるということです。

「石割桜って強いんだね」「桜の花びらが、太陽に照らされて輝いているよ」「夕日の中の桜もきれいだな」「草原で咲いている桜、気持ちよさそうだね」「枝垂桜が風に吹かれて、ダンスをしているみたい」・・・このような声が聞こえてきます。

みなさんも、是非、子どもたちの絵から聞こえてくる声に耳を傾けてみてください。

令和の時代が始まりました。明日への希望とともに、子どもたち一人一人がそれぞれの花を大きく咲かせることを願うとともに、来年もまた、子どもたちの思いの込められたたくさんの作品に出会えることを楽しみにしています。



前 盛岡市立山岸小学校校長

柳村 栄

○審査員 柳村 栄様 略歴

滝沢市出身

盛岡第三高等学校卒

岩手大学教育学部中学校教員養成課程科卒



昭和55年4月～下有住小学校、仁王小学校教諭

平成9年4月～一戸南小学校、北松園小学校、青山小学校 教頭

平成19年4月～洋野町立種市小学校校長

平成23年4月～盛岡市立城北小学校校長、岩手県造形教育連盟会長 他

平成26年4月～盛岡市立山岸小学校校長、

東北造形教育連盟会長、

岩手県小学校長会会長、

全国連合小学校長会常任理事 他

平成29年4月～盛岡市保健福祉部長寿社会課、

もりおか老人大学事務局